

令和2年第12回（臨時）高砂市教育委員会 会議録

日時

令和2年4月28日午後6時00分

場所

高砂市役所南庁舎2階会議室2

出席者

衣笠教育長、山名委員、吉田委員、神尾委員、布施委員

出席事務局職員

永安教育部長、阿部教育推進室長、赤松学校教育室長、北野教育推進室教育総務課長
高橋学校教育室学務課長、矢野学校教育室学校教育課長

本日の会議に付した事件

協議事項

- 1 令和2年高砂市議会第3回臨時会提出議案に係る意見の聴取について
- 2 小中学校の臨時休業の再延長について

議 事 協議事項 2 小中学校の臨時休業の再延長について

○事務局 (協議事項 2 について説明)

○委員 このたび 1 か月延びるということで、まだ延びる可能性も考えなければいけないと思います。最近、教育委員会を開くたびに、色々な小学校、中学校の教師の動きというのが常に話題になっています。今、小中学校共に、少なくとも週 1 回は電話連絡、家庭訪問等をする、あと、課題等も週 1 回程度のペースで渡すということで合っていますか。

○事務局 はい。小学校、中学校とも週 1 回、課題を配付しております。

○委員 今、週 1 回来てないところがあるのです。また、前回の委員会の中で、ある中学校はポスティングじゃなくて直接顔を見て渡すというお話があったと思います。それがやっていいことならば、全ての学校でしないといけないと思います。今、学校現場ができる、やりやすいことではなくて、やってもいい最大に全小中学校が合わせていかないと、これだけ長くなって、差がどんどん出てきて、保護者の不平不満もたまってくる気がするので、高いところに合わせていくということを徹底していかないと駄目だと思います。

○事務局 今、全小中学校の教師が利用できる共通フォルダーを作成し、そこに成果物を保存するというを進めています。良いものを共有できるということで、スタートして 3 週間、徐々に入れてくれる率が上がってきております。

○委員 この 1 か月間にどれだけの学習をしなければならないかということの学習プラン、スケジュールを立てて、提示しなければならないと思います。また、家庭学習のボリュームに関して、1 週間分の課題を纏めて渡すと、ペーパーとしてはすごい量になります。ただ、1 週間学校で授業があった場合は、もっと膨大な量をやっていると思います。学校で授業があった場合の何割ぐらいまではしなくてはならないかを示さないといけないと思います。課題の内容としては、教えてもらわないと分からないことは避けて、漢字や英単語の暗記など一人ですることをする。長期戦になりますので、それぞれの教科によつての指導を細かにする。そうすると学校で授業をするよりも、大変な作業になると思います。また、訪問でも電話でも、その子にとっての必要な時間帯を取ってあげないと、先生も家庭学習の把握ができないと思う。それが最低限の努力というよりも義務だと思っています。今の学習内容に関して危機感を持って接してもらわないといけない。先生の対応の仕方によって格差が拡大してしまうと思います。この 1 か月間腰を据えて、学校がないのだったら徹底して家庭学習に対しての取り組み方を考え直さないといけない。すごく大変だと思うけど、頑張らないと仕方ないと思います。

○委員 これだけ長くなると、印刷物を渡すというのはもう限界だと思います。ワーク

や問題集を使うことも大きな働きになると思います。もう1つ思うのは、課題の回収をしていないと聞いています。それを回収して、通信教育のイメージを持って添削指導しないと。今みたいに課題を渡して渡しっきり、回収するとしても、再開されたときにまとめて持ってくる、それではもう駄目だと思います。やり方と、渡し方とその渡すもののことの2点について、また考えていただきたいなと思います。

○委員 回収しないというのはあり得ない。生徒たちが分からないところや、自分では分かっているつもりで分かっていたところ、そういうところをどうやって教えるのか。一方通行というのは教育としてはあり得ないことだと思います。それと、共通フォルダーに成果物をということですが、先生たちがそれを有効に使われているかどうかというのを検証はしているのですか。使う人、使わない人がばらばらだと思います。統一した教育をしないと各学校で教育の格差が生じても仕方ないと思います。

○委員 保護者の方たちからお聞きする話で、届けられる課題について、最初の頃は復習の課題だったので、子供たちも教科書を一緒に見たら思い出したりしてできるのだけど、新しく習っていないところの課題も出てくるようになり、全然分からない。保護者の方が自分で教えているという方もいれば、外国人の保護者の方など教科書を読むのも難しい人もいるので、他の保護者さんに一緒に教えてもらっている状況の方もいるようです。復習ばかりじゃなくて、新しいことも課題で出しているのですか。出しているとすれば、どのような進め方をされているのでしょうか。

○教育長 たくさんご質問が出ましたけど、まず、子供に家庭学習で与えた課題を回収しているのか、回収したものをフォローしているのですか。

○事務局 回収につきましては、まだ緊急事態宣言の最中でもあり、接触は保護者さんが望んでいच्छらなかつたというところで、どうしても学校としても遠慮することも多々あり、回収ができていないという学校も中にはあったのかもしれませんが。ただ、教師は決して回収しない、添削しない、そういうことは一切考えてないと思います。何とか子供の成果物を見てやりたいという思いはあります。ただ、コロナの恐ろしさとの戦いの中のジレンマというのは、教師自身もずっと悩んでいるところであるのかなと思っています。

○教育長 説明をいただきましたけど、詳細はつかんでいないのですね。

○事務局 はい。そうです。

○教育長 まずは、教育委員会でしっかりと実態把握をして、最低限の学力を保証するような動きがないところは厳しく校長先生にも指導していくという姿勢が求められているというのはあります。まずは実態の把握が必要だということで、課題は新しいこともやっていくようなものもあるのか、実態を把握していますか。

○事務局 16校全ての実態を把握できているというところではないのですが、休業が長期

化している中で、新しいこともしっかりやっていかなければいけません。文部科学省も新しいこととその評価をして良いとQ&Aに書いています。その辺りは学校も随分様子が変わってきまして、新しいことをやっていかなければと考えております。教育委員会としましても動画等を作成し、それを先生方に見てもらい、勉強の基本を教えていきたいと思いますという投げかけを予定しています。学校が再開された後は、補充の学習をしっかりやっていかなければならないですけど、再開されたときに全部また一からという時間がかかる。省略できるところは省略しようということで考えています。他にも考えていかなければいけないことも沢山あり、しっかり進めなければと模索している現状です。しっかり認識していきたいと思います。

○委員 今、言ったことは事務局で思案してプランニングしていることですか、それとも現場の先生ともコミュニケーションを取って、一緒に連携してやろうとして具体的に話し合っていることですか。

○事務局 まだ現場と一緒にという段階ではございません。ただ、課の中では指導主事と一緒にやっていっています。今日も現場の代表校長先生ともそういうすり合わせは行い、今から前に進んでいこうという段階です。

○委員 考え方としてあった、授業が足りなくなった分を、7時間目、土曜日、あるいは夏休みを短縮して補っていこうという形ですが、今何もしないというのとは違います。子供の発達の中でこれだけの空白時間をつくることは非常に大変なことで、学習の仕方、生活リズムが崩れています。そこを充実させるための方法論としては、細かいことを言う気はなく、教育委員会が先生方と話しあって考えていただくものだと思います。ただ、今言われたように、先生方とまだ話し合っていないのは遅いと思います。今後どんな形で授業を行っていきますというプランニングが全然伝わってこない。非常事態だから、今まで以上に頑張ってもらわないと伝え切れないと思います。命をかけてここは頑張りますという形の姿勢が伝わってこなかったら、保護者は何を考えているのだろうと思う。不安を通り越して逆に今度不満が出てくると思います。

○委員 現在、子供とのつながりはポストイングしかないわけだから、そのポストイングの精度を高めるしかないと思うのです。まず顔を見て渡しているのだったら、絶対渡すべきだと思います。会いたくないという保護者がいるのだったら、ポスト等で投函、回収することにしたたり、工夫でなんとかできると思うのです。会っていいのだったら会う、少なくとも回収する、ワークとかプリント量を増やす、再延長になったというところで、これを1つのきっかけとしてレベルを上げないと駄目だと思います。週1回のポストイングしか発しようがないのだから、そこを柱に現場に一生懸命頑張ってもらって、動画、読み聞かせ、その他いろいろ、ICT環境を整えることも柱なのだけど、すぐにできるものではないですので、今できることにどこまで全力を尽くすか。当然、反対

の保護者もいるのだけれども、そこは何らかの工夫でクリアできると思うのです。毎週必ず来て、また持って帰っていただける、一番いいのは前回の分が添削されて返ってくることで、そういうローテーションを組んで、全小中学校がしっかりやっていく。そこで現場の力が問われている。高砂市の先生はみんなこんなにしてくれましたみたいなことを言っていただけるようなことができると思う。

○委員 一方通行では絶対駄目だし、双方向でないと成果が上がらない。双方向というのは、ポスティングで十分だと思うのです。直接手渡せないのだったら、ポストに入れておく形でいいと思います。それを繰り返して、先生がそれを見ることによって生徒の進捗状況を確認できる。もし分からないことがあったら、そこを添削したものを渡す。最低限それをやっていかないと。それと、格差が出ているという話を聞きますけれども、学校の共有フォルダーがあって、そこに成果物がありますから、それを適当に使ってくださいでは絶対に格差を生み出すと思いますので、統一したものをつくるべきではないかと。できるだけ統一しながら、双方向のやり取りを必ずやるということを切に希望します。それはやっぱり責任を持ってどこかが指揮をしなければいけない。声かけるのは教育委員会ではないかと思えます。

○事務局 双方向でしっかりやっていかなければならないということはほんとうにおっしゃるとおりだと思います。ただ、フォルダーについては、作って任せ切りにするということではなくて、学校で考えてやっていくように言っています。その指導の上にプラス、せっかく作ったものだから共有すると便利ですよということで、そこで適当にやってくださいとかいうものではないということだけご理解いただけたらと思います。

○教育長 5月1日に校長会がありますので、そこでも伝えますが、委員の皆さん言うことはほんとうにそのとおりで、私も大きな課題だと思うのは、教育委員会では学校に任せる、学校に伝えるという形で、チェックが十分でない部分があります。どの学校でどんな取組が行われているということをしっかり教育委員会が把握した上で、それが適切でなかったり、悪い意味での格差を生んでしまうような状況だったら、そこはしっかりと指導していく。そういうところが教育委員会としてまだ不十分だと思えたので、今後しっかりとやったことを検証して、足りない分は指導していく。学校の先生方が危機感を持ってやってくれているのかという検証もやっぱり必要だし、学校の現場の声も聞いて、何でも押しつけにならないように、一緒になってやっていけることをする。やりやすいからやるのではなくて、やらなければならないことをしっかりやっていくことが求められていると思います。あと、公教育ですので、最低限の学力保証をしていかないといけないということをしかりと危機感を持ってやっていく。また現場に足を運んで見に行く、声を直接聞くということも大事です。

私自身、今行く時間がなく、行けていません。でも、指導主事が何とか行ける時間があると思いますので、指導主事が足を運んで声を聞いて、課題があったら教育委員会ができることは何なのか、学校でしなければならないことは何なのかということ、コミュニケーションを取りながら協働して取り組んでいきたいと思っていますのでよろしくお願いします。頂いた意見をきっちり学校に伝え、教育委員会と学校の双方向でコミュニケーションは十分取って、子供に不利益のないように対応してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。コロナから命を守るということも大前提でありますけれども、休業が長くなっているという中で、学力や生活のリズムのこと、心が弱くなっている部分へのケアなども大きな課題になっていきますので、そういったことも含めてご意見いただいたことを学校にも伝え、検証もしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

議 事 協議事項1 令和2年高砂市議会第3回臨時会提出議案に係る意見の聴取について

- 事務局 (協議事項1について説明)
- 教育長 説明が終わりました。ご質問ございますか。
- 委員 現在の学校の先生方に対して消毒等は十分あるのですか。
- 事務局 現在は令和2年度予算として各学校に一定の予算を配分しておりますので、そちらのほうで買っていただいて、消毒等や清拭を行っていただいております。
- 委員 この予算は実際いつから使えるものなのですか。
- 事務局 議会のほうに提出しまして、議決を頂いてからになりますので、予定としては5月1日の予定となっております。
- 委員 非接触型体温計というのは手に入るのですか。
- 事務局 現在、在庫が難しいというのは聞いています。あと、手指用のアルコール等もなかなか難しいというのは聞いているのですが、予算がないと発注ができないので、今回は早急に予算を要求させていただいて、業者に発注をかけたいと思っております。
- 委員 発注するためにはこれがないと駄目だということですね。
- 教育長 はい。発注はして、その後届くのに時間がかかってしまうのかなということで、できるだけ早く発注させていただくことのための予算です。
- 委員 学校ではマスクの備蓄等はどうなっているのですか。
- 事務局 先日、政府のほうで1人2枚当たりの配布を開始したという通知文が来ております。ただ、まだ学校のほうには届いてないような状態となっております。
- 委員 今現在、幾らかは県とかにあるのですかね。それとも、もう全然ない状態なのですか。

- 教育長 子供用のマスクのことですか。
- 委員 はい。子供用も職員用も含めてですけど。教師は自分で調達するとおもいますが、幾らかは通常マスクはあったと思うのだけど、今どんな状況ですか。
- 教育長 使い捨てのものについては、幾らか学校にあります。家から持ってくることできてない子に提供するためのものがありますが、全員にというのは、全然数が足りないです。
- 事務局 以前、市役所のほうから1人1枚ずつですが、児童生徒には配らせていただいています。
- 委員 もう配っているのですね。アルコール等とあったので、等にマスクが入るのかなと質問させていただいたのですけれども。
- 事務局 今回の予算に関しまして、使い捨てマスクの購入は考えていません。政府の布マスクの配布があるということと、給食用マスクも使い捨てではないものがあるもの、あと文科省からも手作りマスクとハンカチマスク等の対応という形があります。忘れてきた子供のためにという形での使い捨てマスクは各学校で、少量ですが予定しています。
- 教育長 ご意見いただいたことをまた議会につなげていただきます。よろしく申し上げます。では、第12回臨時の対策協議会を閉会いたします。

令和2年4月28日 午後7時31分 教育長会議の閉会を宣告

(午後 7時31分 閉会)